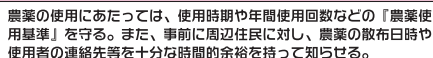


りんご病害虫防除・栽培暦



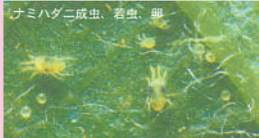
主な栽培管理

殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名		IRAC コード	倍率	農 薬 使 用 基 準		リンゴハダニ	ナミハダニ
				使 用 時 期	年間使用回数		
マンシ油乳剤	ハーベストオイル	—	200	展葉期（発芽後 3 週間まで）	—	○	○
	トモノール S	—	200	展葉期（発芽後 3 週間まで）	—	○	○
	アタックオイル	—	200	展葉期（発芽後 3 週間まで）	—	○	○
	スプレーオイル	—	200	展葉期（発芽後 3 週間まで）	—	○	○
サンマイト水和剤	バクハクフロアブル	21A	1500	収穫2日前まで	1 回	○	○
	エコマイト顆粒水和剤	10B	2000	14	2 回以内	○	○
オマイト水和剤	コロマイト乳剤	23	2000	7	1	○	○
	コロマイト乳剤	12C	750	3	1	○	○
マイトコーネフロアブル	スターマイトフロアブル※	6	1000	前日	1	○	○
	スターマイトフロアブル※	200	1000	前日	1	○	○
ダニコングフロアブル※	ダニコングフロアブル※	25A	1000	前日	2	○	○
	ダニコングフロアブル※	25A	2000	前日	1	○	○
ダニオーテフロアブル	ダニオーテフロアブル	25B	2000	前日	1	○	○
	ダニオーテフロアブル	未設定	2000	前日	1	○	○

※ダニサラバ、スターマイト、ダニコングは合わせて年 1 回以内の使用とする。

（注意） 1. サンマイトは落花直後に使用しない。
2. ダニオーテは銅剤（有機銅剤及びオキシラン）と混用しない。銅剤を散布した後はダニオーテを使用しない。ダニオーテ散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布期間をあける。
3. コロマイトは 6 月下旬までの使用を避ける。
4. オマイトは 7 月下旬までの使用を避ける。

収穫前の規制に注意

散布する農薬の農薬使用基準（収穫前日数・年間使用回数）をよく確認しましょう。早生種など要注意！

○：本防除剤で防除剤として適用するもの。
△：○印の害虫に適用した場合、防除の必要がないもの。
a：落花直後に適用する。 b：7月半ばに適用する。 c：9月以降に適用する。

(注意) 1. オリオン水和剤は落果のおそれがあるため開花後1か月間は散布を避ける。
2. ビレスロイド剤は6月中旬までの使用を避け、その後もできるだけ使用回数

- FRACコード及びI RACコードは、同系統の農業を同じ記号で分類したものであり、このコードを参考に、異なる系統の農業でのローテーション散布を行い、耐性及び抵抗性回避に努める。
- 使用残りの薬液や散布器具の洗浄液を池や川などに流入させない。

カルハード	2,000倍	1,000倍
ストピットⅡ	500倍	—

◇ジマンタイセソ、カルシウム剤は尿素や葉面散布剤と混用すると葉焼けが発生する可能性があるとの混用は避ける。また、高濃度、高温時の散布は、葉面が乾いた、葉のうしろ側が乾いたのを避ける。